

# 市制はじまって以来の

# 大災害

市制はじまって以来かつて無い被害となった、土砂災害の被災者のみなさまに心からお見舞い申し上げます。

災害発生当初から、市・消防団で全力をあげて救助に取組みましたが、未だ行方不明の方がおられ、懸命の捜索を継続中であります。

また、避難勧告・指示が発令され、解除となった地域もありますが、現時点では決して安全な状態であるとはいえませんので、引き続き周辺地域の方々と共に嚴重な警戒をしていただきたいと思います。

〔7月24日現在〕



上の原小学校裏（7月20日撮影）



湊三丁目久保寺南側（7月20日撮影）

## 〈災害の概要〉

7月19日（水）未明に、湊・川岸・上の原地区などで土石流が発生しました。市では、午前5時40分に「市災害対策本部」を設置して、情報収集と対策にあたりました。状況把握のため県危機管理室に自衛隊への要請するとともに、6時15分に川岸橋原志平地区、6時20分に湊久保寺付近、6時22分に鮎沢地区、7時45分に上の原小学校付近、9時5分に新倉区5町内の住民に対して避難勧告を発令しました。

行方不明者の捜索には、自衛隊員も派遣され、警察、消防署員・団員、緊急援助隊などにあたりました。

7月20日（木）午後3時15分に湊5丁目栃久保下流域の一部、同時刻、川岸一の沢下流域の一部に新たに避難勧告を発令しました。

7月21日（金）午前7時10分に花岡公園南側で土砂崩落があり、湊1丁目8番～19番、湊2丁目1番～5番の住民に避難勧告を発令（後に避難指示に変更）しました。

避難されたみなさんは、避難所である各地区の公会所や学校で、土石流が発生した19日～24日の間に延べ3800名以上の方が避難され、眠れず不安な夜を過ごされました。

避難勧告対象の地区を中心に、住宅の倒壊・半壊が

35棟、一部破損が13棟、床上浸水が57棟、床下浸水が218棟発生しました。（7月20日調査速報値のため、今後の調査により変更があります）

また、市内各所の道路では、土砂の流出や陥没等により通行不能となり、シルキーバス・スワンバスの運休やJR線列車の運休、高速道路の通行止め等、交通網が麻痺状態となつてしまい、多くのみなさんの足に不便をきたしました。

7月24日（月）時点では、湊久保寺付近の避難勧告は継続中となっておりますが、それ以外の地区に発令されていた避難勧告・指示は全て解除となっております。

今回の土砂災害では、死者7名（川岸志平地区1名、湊地区6名）、行方不明者1名（湊地区）（7月24日（月）現在）と、尊い命が奪われる大変悲惨な災害となつてしまいました。土砂災害に限らず、さまざまな災害から自分自身や家族を守るためには、日ごろからの備えが大切です。自宅や勤務先の建物および周辺の地形等を把握して、どのような危険があるのか、また避難所の位置や避難経路等の確認をしておきましょう。

そして、危険を感じたら、避難勧告等が出ていなくても、すぐ自主避難をしましょう。

市では、今回の災害に遭われたみなさんに対して、被災者支援対策を検討しています。内容が決まり次第、随時広報等でお知らせしていきます。



川岸橋原志平地区（7月20日撮影）

# がんばろう！おかや

被災地域の日でも早い復旧のために、小学生から高齢者の方までがボランティアとして泥上げやごみ片付け、物資の仕分け・搬入などに汗を流しました。

その中から3人の方にお話を伺いました。

以前、市の防災フェアに行った時、ボランティア登録をしていたので依頼があり、休日だけでもいい、ボランティアに参加しました。ボランティアには市内だけでなく、伊那や上田、県外などから



三澤 淳志さん (37歳)  
小学校教諭

自分が被災地では被害はなかったけれど、市内の一部地域ではひどい状況になっていることを知り、現場に来て、人の手助けが必要だということ深く実感しました。早く復興が出来るよう、ボランティアを募集していることをもつと宣伝して、多くの力が集まることが重要だと感じました。



杉浦 建夫さん (35歳)  
飲食業

災害報道をインターネットで見、何かしなければという思いが湧き、初めてボランティア活動に参加しました。自分の地区では被害はなかったけれど、市内の一部地域ではひどい状況になっていることを知り、現場に来て、人の手助けが必要だということ深く実感しました。早く復興が出来るよう、ボランティアを募集していることをもつと宣伝して、多くの力が集まることが重要だと感じました。

これからそういった心配りができると思っています。被災者のみなさんが早く元の生活に戻れるよう、また、災害に強い安全なまちづくりをしてほしいと思います。

また、このボランティアを通して、今、何が重要なのかという情報を把握する重要さを学びました。

岡谷市はそれほど大きくない街ですが、北海道など全国各地の個人や企業からいろいろな物資が送られてきました。一地方都市の災害に反応した心の温かさを感じさせられました。

物資受け入れ担当のボランティアをして、すごいなと感動したのは「助け合いの心」です。



梅田 依里さん (18歳)  
学生

も来られている方がいました。こういった災害を乗り切るには、一致団結できる心が大切だと思います。それには日頃から地区の行事等に参加するなどして、人と人とのつながりを大切し、温かい心を育てていければいいと思います。

## 岡谷市災害対策本部 義援金・物資の受付について

### 1. 義援金

**現金** 受付 市役所5階 総務課窓口

**口座振込み** ①郵便局 8月18日(金)まで

・全国の郵便局から料金免除(無料)で振込ができ、振込先は、各郵便局に看板があります。  
※振込まれる方は住所、氏名を必ず記載してください。

②銀行振込み

・振込先

銀行名	八十二銀行
支店名	岡谷市役所出張所
口座名義	岡谷市災害対策本部 岡谷市収入役 倉坪宏夫
口座番号	33101

・ただし、地方銀行からの振込みは無料でできますが、他の銀行等からの振込みは手数料がかかります。

**現金書留**

・全国の郵便局から料金免除で現金書留を郵送でき、振込先は、各郵便局に看板があります。  
※振込まれる方は住所、氏名を必ず記載してください。

### 2. 義援物資

・申し入れの受付 ボランティアセンター(市役所1階市民ロビー)、総務課窓口

(☎24-8146)

(☎23-4811)

・物資の搬入

市役所1階市民ロビー



# らす家庭生活

参画推進市民の会が原稿を募集しました

たくさんの応募ありがとうございました。全部ご紹介できませんので、パートナーシップで頑張っているご家庭の作品を一編ご紹介します。

## 「我が家の共同参画」

匿名希望（男性）

定年退職者が紹介される社内報の記事。「悠々自適に過ごし世界一周の旅にでも・・・」と思っていたのに、母が入院しすでに10ヶ月が経つが、妻は一日も欠かさず介護に通っている。

妻自身も不整脈という厄介な病で、毎日血圧をメモし病院通いしている姿は痛ましく、いきおい何事も一緒にやらざるを得ない。

当然のことながら、食事の用意、洗濯、掃除、買い物は手伝う。時々「手伝う」というスタンスが気に入らないようで苦言が飛ぶ。男もやるのが当然だと思っているようだが、考えてみればその通りである。

妻は、親の介護のために定年を目前にして職場を去った事が悔やまれるようで、私の所に送られてくる定期的な社内報をよく見ている。それだけに、できるだけ希望に添って支えているつもりだ。

20歳頃に取得したペーパードライバーゆえに、月一回の信毎セミナーも日程を空けて私が送迎している。聞きたい講師の話であれば松本でも案内役をしている。

そんな妻も社協にボランティア登録をして、一人暮らしの高齢者への温泉配湯や、暇をみて社協からの大量の古切手にハサミを入れて整理したり、市内のバンドグループから誘われては、施設訪問で歌唱などのボランティアで気を紛らわしている。

そんな事で我が家は、それぞれが自立しながら支えあっている。最近新築した家は共有名義にし、土地も名義を書き換えて、どちらが一人暮らしになっても困らないようにと老後の生活の事を考えている。

私はカメラに読書三昧と地域活動で、企業人時代になかった人脈を得て幸せに楽しくやっている。すべてが母親介護中心の生活サイクルはまだ続くだろう。



応募原稿を市民の会員が読み合わせ



6月23日～29日男女共同参画週間に合わせてパネル展示

パートナーシップ  
おかや No.7

心豊かな男女共同参画社会の  
実現をめざして





# 男女が輝いて暮

「我が家の共同参画」について、男女共同

応募作品から一部をご紹介します。  
みなさんのご家庭ではどうでしょうか？

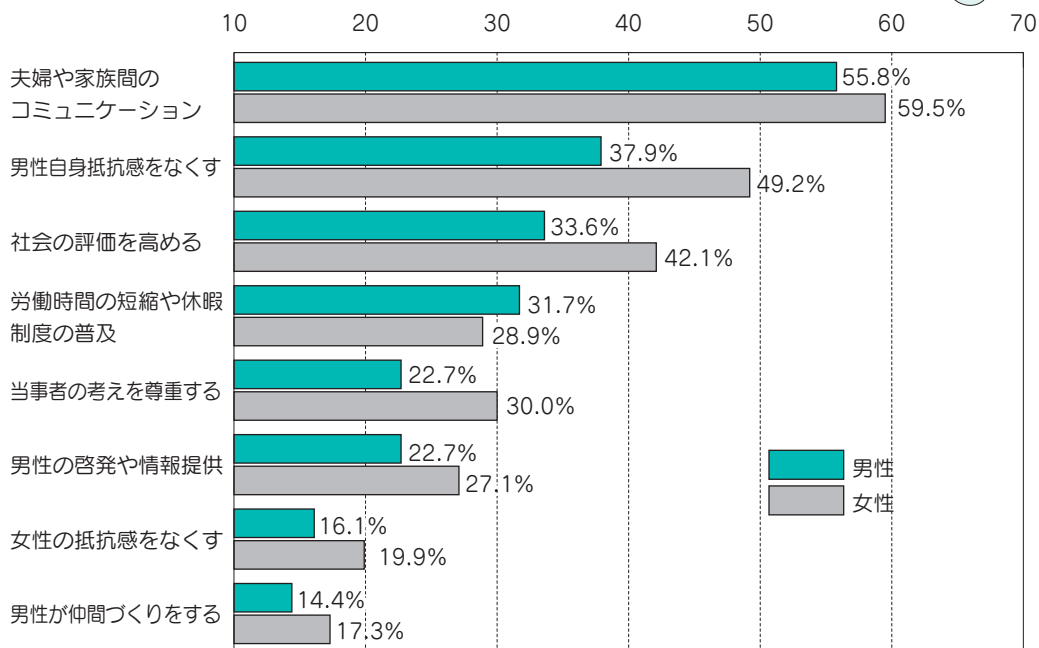
- 男女に限らず子どもたちも一緒に家事を分担し、朝食、夕食は家族揃ってとるようにしています。
- 育休が終わり職場に復帰しました。心配した家事、育児を夫がよく手伝ってくれるようになり、私も安心して仕事が続けられそうです。子どもの成長を夫と共に見守りたいと思います。
- 二人の子どもの子育てに追われ、毎日大変だろうと夫が子どもをみてくれるというので、私は週末には茶道を学びながら息抜きをしています。その時間は私にとってとても大切な時間です。
- 母親が入院し、私の病院通いが始まったら夫も家事をやり始め、今は買い物も食事の用意もしてくれます。それまではできないのではなく「やらなかった」のです。いや、私が「やらせなかった」のかも知れません。今では当然のこととして助け合っています。
- 夫の退職を機に私が、「少し家事もやって」と声をかけたら、今では家事もすっかり身につきました。
- 町内の草取りやゴミ出しをするようになった夫は、地域との交流ができ、話題も多くなりました。



“あいとびあ”

男女共同参画啓発かるた

## 男性が家事、育児、介護、地域活動へ参加するには どんな事が大切でしょうか



内閣府世論調査 (2004)

- 男性も職場中心の考え方から働き方を見直しましょう・・・仕事も大切、家庭生活も大切です。
- 男女が共に職場、家庭、地域活動のバランスのとれたライフスタイルを考えましょう。

男女共同参画に関するお問い合わせは……総務部企画課 (内線1528)